

平成 27 年 9 月

「磐梯朝日国立公園 第 7 回月山を外来植物から守ろう」 実施報告書

環境省羽黒自然保護官事務所
月山ビジターセンター運営協議会

磐梯朝日国立公園出羽三山地域の月山は、参拝や登山、観光を目的として多くの方が訪れます。しかし、近年、山頂周辺や登山道沿いなどに本来生育していなかった外来植物や低地に生える植物が繁茂していることが確認されています。

そのため、これらの植物の駆除作業によって月山本来の植生を保全し、月山の自然のすばらしさや保全の重要性の理解を深める機会とするため、平成 28 年施行の国民の祝日「山の日」のプレ行事として、平成 27 年 8 月 11 日に当該行事を開催いたしました。

1 主催、後援、協力

主催：環境省東北地方環境事務所・月山ビジターセンター運営協議会の共催

後援：西川町

協力：休暇村羽黒、月山観光開発株式会社、月山ガイド協会

2 日程等

平成 27 年 8 月 11 日（火）7:00～14:30 天候：曇り

7:00 開会式（鶴岡市小真木原運動公園中央駐車場）

（バス移動）

8:15 姥沢駐車場着

8:40 月山スキー場下駅発（リフト乗車）

9:00 月山スキー場上駅着

外来植物除去作業

（作業前、環境省職員より外来植物についてレクチャーを実施）

10:40 月山スキー場上駅発（姥ヶ岳へ登山）

11:15 姥ヶ岳山頂着（昼食休憩）

11:55 姥ヶ岳山頂発

12:20 月山スキー場上駅着（リフト乗車）

12:45 月山スキー場下駅着

13:00 姥沢駐車場着

閉会式（姥沢駐車場解散の方がいたため）

（バス移動）

14:30 小真木原運動公園中央駐車場着、解散

3 場所

磐梯朝日国立公園 月山スキー場上駅周辺及び姥ヶ岳（山形県西村山郡西川町）

4 参加者

一般参加者 22 名

羽黒地区パークボランティア 2 名

月山ビジターセンター運営協議会 1 名

環境省羽黒自然保護官事務所 2 名

合計 27 名

5 外来植物除去作業

日 時：平成 27 年 8 月 11 日（火）9:00～10:30（休憩含み約 1 時間 30 分）

場 所：月山スキー場上駅周辺

対 象 種：セイヨウタンポポ、エゾノギシギシ

※2 種とも「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）に該当。

作業方法：草取り器具を用いて、手作業で全草（根を含む）を除去。

除 去 量：93.6 kg（生重量。採取後は袋に詰めて公園外に搬出し、適切に処理）

※作業箇所は国立公園第 3 種特別地区内に該当。指定植物でないため自然公園法の手続きは不要。

※土地所有者及び土地借地者の了承を得て実施。

※文化財保護法第 1 2 5 条 1 項 維持の措置として実施。



外来植物除去作業中の様子④



外来植物除去作業中の様子⑤



除去した外来植物 (生重量 93.6 kg)



姥ヶ岳登山



昼食休憩（姥ヶ岳山頂）



集合写真（姥ヶ岳山頂）



閉会式（姥沢駐車場）



■今後に向けて

今回の行事では、多種（平成 25 年外来植物分布状況調査において 9 種を確認）の外来植物の生育が確認されている月山スキー場上駅周辺において、月山スキー場を運営する月山観光開発株式会社をはじめとする関係機関のご協力をいただき、外来植物除去作業を実施することができました。

今回の作業では、調査結果及び事前下見のもとに、我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）該当種であり、一般参加者による植物の見分けが比較的容易な外来植物「セイヨウタンポポ・エゾノギシギシ」の 2 種（両種とも多年草植物であり、当該地において在来の高山植物に混じって旺盛に生育している状況）を対象として除去作業を行いました。参加者（スタッフ含む）27 名、約 1 時間 30 分の作業時間で生重量 93.6 kg の除去を行うことができました。しかしながら、両種とも残った根からの再生能力が高く繁殖力が強いことから、今後の生育状況を注視していく必要があります。また、当該地では、オオアワガエリやオオバコ等が広範囲に渡って生育していますが、それらの外来植物を除去するにいたっていません。今後は、経過状況を注視しながら、防除活動として、関係機関と連携を図り、リフト下駅の乗車乗り場等に、登山者の靴底に付着した植物種子除去マットの敷設や周知活動を進めていきたいと考えています。

また、参加者の様子やアンケート結果より、姥ヶ岳登山の際にニッコウキスゲやキンコウカ等の多くの高山植物を観察することができ、大変満足いただけました。それら植生の生育環境に侵入し、競合・駆逐の恐れがあるため、今回の作業を実施しましたが、その意味合いも十分理解いただけたようです。それらのことから、来年施行の国民の祝日「山の日」の趣旨である「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」に合致するプレ行事とすることができたとと言えます。

さらにはアンケート結果よりも、今後も継続的に、また回数を増やして開催して欲しいといった旨のご意見をいただいています。来年度以降についても、関係機関等と連携を図り、一般参加者を募り、継続して当該行事を実施していく予定です。